

年 組 番  
(名前)

<新聞記事から考えよう> 180809



## 佐賀藩士の活躍 思いはせ

### 武雄市の小学生 秋田市訪問



佐賀藩士の墓の前では、遠く離れた秋田の地で亡くなった藩士に思いをはせ、合掌した二天龍寺

**【武雄市】** 戊辰戦争（1868～69年）で援軍を送った縁で秋田と交流のある武雄市の小学生の訪問団が4日から3日間、秋田市内を訪ねた。5日は、新屋地区にある藩碑や藩士の墓に足を運んだほか、開催中の秋田半燈まつりで妙技大会を見学した。

# 佐賀藩士の活躍 思いはせ

### ◎記事から読み取ろう

- 武雄市と秋田市の交流についてまとめよう。
  - ・交流はいつからはじまったのですか。
  - ・交流がはじまるきっかけはどんなことですか。
  - ・交流で秋田市を訪問したのは何人ですか。
  - ・新屋地区の人の心遣いとはどんなことですか。

### 竿燈まつり妙技も体感

武雄市と秋田市の交流は、1986年に新屋日吉地区で武雄出身者を含む佐賀藩士の墓が見つかったのをきっかけに始まった。今年5月には明治維新150周年にちなみ、武雄市で25年ぶりに半燈が披露された。今回の訪問は武雄市などで行く実行委員会の主催。武雄市内の9小学校から募集した5、6年生20人と、市職員ら計25人で訪問団を構成。2泊3日の日程で日新小の児童と交流したり、秋田半燈まつりを観覧したりした。5日は、藩士の墓を管理する「新屋墓園会」（渡辺克忠会長）の会員から案内を受けながら、藩士が眠る2寺院を訪問。その後、渡辺会長から戊辰戦争に関する講話を受けた。



秋田半燈まつりから手伝きを受けながら、幼習を待ち上げる武雄市の児童（CNAアリーナ）

訪問団はCNAアリーナ（市立体育館）で行われた半燈まつりの妙技大会も見学。児童は目の前で繰り広げられる妙技を写真に取めたり、市半燈会から手ほどきを受けながら幼若（長さ5尺、重さ5kg）を上げたりした。5月に見た半燈に感動して参加を決めた若木小6年の笠原あいこさん（11）は「間近で見ると半燈の迫力はすごかった。幼若で力もバランスを取るのが難しくて、大きい竿を軽々と上げる人は本当にすごいと思っ」と話していた。武雄市教育委員会の浦郷究教育長（67）は「遠く離れた両市の縁を子どもたちが知る良い機会となった。これまででは大人同士の交流が中心だったが、これを機に子ども同士の交流を増やしつつあるように思う」と話した。（秋田魁新報提供・佐々木翔吾記者）

(佐賀新聞2018. 8. 9)

### 広げよう・深めよう

○もし秋田の子どもたちを招待するとしたら、どんなもてなしをしたらいいと思いますか。

### ◎自分の考えをまとめよう

\*友達と意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○このように交流を深めていくことについてどう思いますか。